

まつた。中面の記事と写真では2組の30代の若者たちの農園での笑顔がまばゆいほどにてきて、彼らの就農チャレンジへの意志の強さにとても感動し応援したくなつた。

辺はミカン農家が多い。

わが家周辺

「きつかばてん、がんばらなん、生きてゆけんもんな」という80代のご夫婦の言葉に、私は即座にどう返事していいか分からず、心の中でただただお2人の健康を祈るばかりだった。

後継者不足で、耕作放棄地と空き家が確かに一年一年と増えてきていた。土地を借りたり購入したりして少し若い同業の人たちが続けてもいるが、厳しい実態のように思える。

就農希望する若者ら支援を

小山いつ子⁶⁷＝主婦（熊本市）
「くまにちすぱいす」
(5月14日号)の第1面の写真に添えられた「農家になる」という選択とい

う見出しに思わず自分が留

このような現状の中で

熊本県が全国有数の農業県だという誇りを維持するためには、若者たちへの就農サポートを充実させ、継続させ、持続可能な目標を持つてバックアップがなされることを切望したい。